

私記 日中戦争史

年老いた幼年生徒はいま何を思うか

推薦の言葉



新聞で有名な百人斬りとは白兵戦での武勇伝ではなく、降参した捕虜を斬っただけという勇士本人の講演に、国家を信じ軍人に憧れていた純朴な軍国少年は「ひどいなあ、ずるいなあ」という疑問を抱く。将校の卵である陸軍幼年学校生徒になり、素直に軍隊教育を受け入れてからもその疑問は持続していた。のちに自己の良心に従って百人斬りについて証言する。その経過がよく分かる本である。いまや八〇代半ばに達した著者の結論は、三度日中戦争を繰り返すなという切々たる日中不戦の訴えとなった。老壮青のどの読者にも読んでほしいと思います。

ジャーナリスト 本多勝一

内容紹介

太平洋戦争緒戦の勝利からその壊滅にいたる興亡の三年半を、幼年学校と予科士官学校という帝国陸軍の揺籃で過ごした著者が、自らの経験から吐露する日中不戦の訴え。忘れられようとする日中戦争の史実を掘り起こして軍隊と国民のあり方を問う。前の戦争を総括せず超大国のアジア回帰に従属していれば日本は安心なのか。年老いた将校生徒が現代と戦前戦中の相似を憂えて書き残す警世の書。戦争世代の遺書でもある。

志々目彰 著

日本僑報社 2012年8月刊行

ISBN：978-4-86185-136-0 C0036



年老いた幼年生徒はいま何を思うか

志々目彰 著

私記 日中戦争史

志々目彰 著

The Duan Press


推薦の言葉



新聞で有名な百人斬りとは白兵戦での武勇伝ではなく、降参した捕虜を斬っただけという勇士本人の講演に、国家を信じ軍人に憧れていた純朴な軍国少年は「ひどいなあ、ずるいなあ」という疑問を抱く。将校の卵である陸軍幼年学校生徒になり、素直に軍隊教育を受け入れてからもその疑問は持続していた。のちに自己の良心に従って百人斬りについて証言する。その経過がよく分かる本である。いまや八〇代半ばに達した著者の結論は、三度日中戦争を繰り返すなという切々たる日中不戦の訴えとなった。老壮青のどの読者にも読んでほしいと思います。

ジャーナリスト 本多勝一

ご注文は、日本僑報社 e-shop (中国研究書店)、アマゾンなどをご利用いただくか、またはこのチラシを書店にご提示ください。(トーハン 日販 その他 取次コード：5752)

 <p>おかげさまで20周年 since 1996</p>	<p>私記 日中戦争史</p> <p>ISBN 978-4-86185-136-0</p> <p>発行日：2012年9月18日</p> <p>A5判 168頁 並製</p> <p>定価：本体 1900円 + 税</p>	<p>注文部数</p>	<p>ご注文 / 番線印</p> <p>ご注文の方は、 注文部数、住所 干、氏名、電話番号をご記入ください</p>
	<p>日本僑報社 e-shop http://duan.jp</p>	<p>部 (送料無料)</p>	
<p>送信 FAX 03-5956-2809</p>			